

令和元年度 長与町学校評価（共通の評価項目）報告書

長与町立長与第二中学校

1 共通項目

基本目標 たくましく豊かな心を持つ青少年の育成

項目	重点目標及び取組内容	評価 (最高4)	分析及び改善策 (○…成果、●…課題)
心の豊かさ と自ら学ぶ力を育てる 学校教育の 実現	1 豊かな心の育成 (1)いじめ、不登校への適切な対応（必須）	3.6 妥当	○学年所属職員を中心に情報を共有し、チームで役割分担を行い、対応している。 ●不登校、不登校傾向の生徒は増加傾向にある。家庭や外部機関との連携を深める。
	(2)道徳教育の充実を図るとともに、友愛の精神を尊重し、思いやりの心を育む	3.5 妥当	○道徳の教科化に伴い、評価方法についての研修を深めるとともに、学級担任だけでなく、副担任も授業作りに関わった。
	(3)学校行事や部活動を通して、礼節と協調性を養い、たくましい心を育てる	3.6 妥当	○学校行事や部活動で生徒は主体的に活動している。 ○部活動ガイドラインに沿って休養・休日を徹底した。
	2 基礎学力の充実 (4)「めあて、振り返り」の完全実施とわかる授業の実践	3.5 妥当	○全国・県学力調査、ながよ検定、標準学力調査に向けて、教科の枠を超えた取組によって好結果を収めた。 ●生徒の主体的な学びにつながる「めあて」の提示の在り方には更なる工夫が求められる。
	(5)家庭学習の習慣化	3.3 妥当	●家庭学習については、個々への対応も検討していく。
	3 健康・安全教育の推進 (6)環境美化と整理整頓の指導徹底	3.4 妥当	●町住民環境課によるゴミ分別研修会を実施した。環境保全の意識を高めるために、委員会活動の活性化を図る。
	(7)アレルギーへの共通理解と対応の徹底	3.6 妥当	○家庭との連携、校内管理体制の徹底でアレルギー対応の確実性を維持する。
	(8)防災や危機意識の涵養と自己防衛意識の指導（メディア安全を含む）	3.3 妥当	●高校生による「サイバーセキュリティボランティア」などを活用し、メディア安全の意識を向上させる。
	4 特別支援教育の充実 (9)一人一人のニーズに応じた支援と計画	3.5 妥当	○特別支援教育部会や生徒指導委員会を定例で行ったり、支援員による配慮を要する生徒に関する記録を全体で共有したりするなど、全職員が同一歩調で指導、支援に当たっている。
	(10)生徒の実態把握と対応策の策定及び共通理解と共通実践の充実	3.4 妥当	
	5 国際化への対応 (11)人権意識の高揚と豊かな人間関係づくり	3.2 妥当	○人権集会では、ALT による講話を行い、外国人との関わり方について考えるきっかけとなった。
	(12)日本の文化や地域の理解（各教科）	3.3 妥当	●新たな地域人材や地域教材の活用場面を検討する。
	(13)グローバルな視野を持たせる取組（総合的な学習）	2.9 妥当	○1年 NICE（ALT との英語交流）、3年シボル校留学生と交流では、様々な国の人々との交流を行った。

<p>6 教育環境の整備 (14)安全点検の実施と学習環境整備の徹底 (PTA学校ボランティアの活動含む)</p> <p>(15)通信やHPなど学習成果の発信と共有</p> <p>(16)労働環境の適正化と働き甲斐のある職場づくり</p>	<p>3.3 妥当</p> <p>3.3 妥当</p> <p>3.3 妥当</p>	<p>○PTA、もちの木会の協力のもと、運動場側溝清掃作業及び剪定作業を実施した。</p> <p>○従来の電話連絡網、HPに加え、保護者への連絡手段として電子メール・システムの運用を開始した。</p> <p>○統合型校務支援システムの本格導入によって事務作業が効率化した。</p> <p>●勤務時間の自己管理による超過勤務の縮減を目指す。</p>
<p>7 教職員の資質向上 (17)指導力の向上(必須)</p> <p>(18)教科研究と校内研修の充実</p>	<p>3.5 妥当</p> <p>3.4 妥当</p>	<p>○夏季休業中に全教員が模擬授業を実施し、教科の枠を超えた相互研修を行った。</p> <p>●次年度の研究発表会に向けて、計画的に研究に取り組む。</p>

2 学校評価のまとめ

<p>1 豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ いじめや不登校などの個々の問題に、学年職員集団を中心に組織的に対応した。 ○ 生徒の主体的活動による「いじめ対策特別委員会」は、生徒同士の支持的風土の醸成や、人権集会などの行事の活性化につながった。 ○ 道徳の教科化に伴い、評価方法についての研修を深めるとともに、学級担任だけでなく副担任も授業を担当するなど、職員全体で道徳教育に関わった。 ● 「考え、議論する道徳」の実現に向けて、対話的な学習にさらに力を入れていく。 ○ 体育大会や二中祭などの学校行事で、生徒たちは主体的に活動している。 ○ 部活動ガイドラインの趣旨を保護者、外部指導者等に説明する場を設けるとともに、週休2日等の休養・休日を実践に取るよう指導した。 <p>2 基礎学力の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 4月実施の全国学力調査(3年国・数・英)、県学力調査(2年国・数)の平均正答率は、全ての教科で全国平均及び県平均を上回った。 ○ 12月実施の標準学力調査(1・2年国・社・数・理・英)の正答率は、全ての教科で全国平均・町平均を上回った。 ○ 基礎学力の定着を図る「ながよ検定」では、教科担任だけでなく、学年所属職員全体で実施前の補充学習を行い、合格率を向上させた。 ● 生徒の言葉から授業の「めあて」を引き出すなど、主体的な学びにつながる「めあて」の提示の在り方には更なる工夫が求められる。 <p>3 健康・安全教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 町住民環境課による生徒向け・職員向けゴミ分別研修会を実施した。ゴミ減量や環境保全の意識を高めるために、委員会活動の活性化を図る。 ○ 家庭との連携や校内管理体制を徹底させることでアレルギー対応の確実性を維持する。 ○ 不審者対応を想定した避難訓練を実施したことで、職員、生徒ともに危機管理意識を高めることができた。 ● 高校生による「サイバーセキュリティボランティア」などを活用し、メディア安全の意識を向上させる。 <p>4 特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援教育部会や生徒指導委員会を定例で行ったり、特別支援教育支援員による配慮を要する生徒に関する授業記録を職員全体で共有したりするなど、全職員が同一歩調で指導や支援に当たっている。 <p>5 国際化への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権集会では、ALTによる講話を行い、外国人との関わり方や外国人の見方・考え方について考え、グローバル的な視野をもつことができた。 ○ 1年英語科では、夏季休業中に県立大シーボルト校でNICE(ALTとの英語交流)を行

った。3年総合では、シーボルト校の留学生と交流し、他国の文化について学んだ。

- 新たな地域人材や地域教材を発掘し、教科等での活用場面を検討する。

6 教育環境の整備

- P T A、学校支援ボランティア「もちの木の家」の協力のもと、運動場の側溝清掃作業を実施した。
- 従来の電話連絡網、ホームページに加え、保護者への連絡手段として電子メール・システムの運用を開始した。
- 統合型校務支援システム C4th の本格導入によって事務作業の一部が効率化された。
- I C カードによる出退勤時刻の管理を行っている。勤務時間の自己管理による超過勤務の縮減（80時間超ゼロ）を目指す。

7 指導力の向上

- 夏季休業中に全教員が模擬授業を実施し、教科の枠を超えた相互研修を行った。
- 次年度の研究発表会に向けて、計画的に、組織的に研究に取り組む。

3 学校関係者評価（令和2年2月5日実施）

- それぞれの項目の自己評価は妥当である。

[不登校対応について]

- 不登校への対応は、学校任せになってないか。町としての対応はないか。
→ 小学生に対し、通学合宿を行っている学校もある。長与町は、支援員や相談員の配置も多い。スクール・カウンセラーやスクール・ソーシャルワーカーの力を借りるなど、それぞれのケースに応じてきめ細かく対応している。

[部活動について]

- 部活動ガイドラインに沿って活動が行われているが、活動時間を増やしてほしいという保護者の要望はないか。
→ ガイドラインに沿って確実に休養させてほしいという意見と、活動時間を増やしてほしいという意見の両方がある。競技力を高めたいと思っている人にとっては少ないと感じている。故障者は確実に以前に比べると減っている。
- 練習が足りない人は自主的に増やしているのではないか。
- 人数が少ない中で駅伝も頑張っていた。

[食物アレルギー対応について]

- アレルギー対応はどのようにやっているのか。
→ 家庭との連携のもと、学級担任、給食担当、管理職等によって毎日、二重、三重のチェックを行っている。

[情報モラル教育について]

- 高校生から中学生に対して行う「サイバーセキュリティボランティア」は効果が期待できると思う。

[ICT教育について]

- 一人一台タブレットP Cとなると、どのような授業になるのか。
→ 学習者用のデジタル教科書が全てタブレットP Cの中に入るとよい。

4 対策等の見直し（学校関係者評価を受けて）

- 不登校、不登校傾向の生徒は増加傾向にあり、家庭に寄り添うとともに、スクール・カウンセラー、スクール・ソーシャルワーカー、児童相談所、学校教育課、こども政策課等の外部機関との連携をさらに深めていく。
- 生徒による「いじめ対策特別委員会」の活動がマンネリ化しているところもあり、日常的な活動について新たな取組を検討する。
- 補充学習を強化することによって、自信をもつ生徒がいる一方で、与える課題が負担になっている生徒もいる。質と量について個別的な対応を考えていく。

5 いじめ問題に関する取組の実施状況

評価項目	評価観点等の内容	評価 (最高4)
1 日頃の児童生徒理解 (21)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に生徒の言動を観察し、生徒が示す小さな変化や危険信号を見逃さないように努めているか。 ・生徒が安心・安全に学校生活を送ることができているか。 	3.5 妥当
2 未然防止や早期発見 (22)	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にアンケートを実施したり、日々の観察で問題の把握に努めているか。 ・ささいな兆候であってもいじめとの疑いを持って早期発見に努めているか。 	3.7 妥当
3 いじめへの迅速適切な対応(23)	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの通報・発見があった際に、速やかに関係教職員に連絡し、情報を共有、対応しているか。 ・生活アンケートや個人面談で正確な情報収集を行い、生徒の寄り添う指導を行っているか。 	3.7 妥当
4 組織的な取組(24)	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策委員会を中心として、機動的、組織的に対応する体制が整備されているか。 ・定期的なアンケート結果や欠席日数等を各種部会で検証し、対応しているか。 	3.4 妥当
5 方針等の共有(25) (保護者・地域)	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止基本方針に基づく取組や具体的な年間計画を明確にしているか。 ・いじめ防止基本方針や対策、いじめ発生時の対応の在り方について、保護者、地域と共通理解を図っているか。 	3.2 妥当
6 その他(26) 委員会活動の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策特別委員会の定期的な実施と活動の活性化が図られているか。 ・いじめ対策特別委員会の活動成果として人権集会を位置付け、更なる生徒の人権意識の高揚を図っているか。 	3.2 妥当